

わたしたちのふるさと桜木校区は、託麻台地に連なり、健軍原の一部と藩政時代から形成されていた沼山津等の畑作地帯であった。

三菱航空機製作所建設に伴い、昭和十八年付属青年学校が創設。現在の東本町地区が開発された以外、昭和三十年代までは阿蘇の山脈がどこからでも眺望できる広漠たる畑地が東に広がっていた。

熊本市の東部発展に伴い漸次住宅化都市化が進み、昭和四十六年（一九七二）桜木小学校が秋津小学校から分離独立して開校。

校区は、「昭和町・桜木一丁目・二丁目・花立一丁目・二丁目の全域」と「桜木三丁目・花立三丁目・四丁目・東本町」の過半を範囲とし、世帯数二千九百九十四戸・人口七千七百七十三人（平成十四年二月一日現在）である。

台地の畑地であったためか、沼山津遺跡や沼山津の鎮守神である沼山津神社が校区内にある。

〔考古遺跡〕

1 沼山津遺跡（マップ番号 1）

所在地 熊本市沼山津二丁目、桜木二丁目

沼山津神社ならびに竹内神社一帯で、出土品は縄文時代の打製石斧が採集されている。縄文時代の遺物以外では弥生末の土師器の細片のみ。

（秋津小百周年記念誌 秋津の歴史）

〔 寺 社 〕

2 沼 山 津 神 社

(マップ番号 11)

鎮座地 熊本市桜木二丁目一六番 (横皇 七五七番地)

いさなきのみこと

いさなきのみこと

はやたまのから

祭神 伊弉諾尊 伊弉册尊 速玉男之神

産交バス停沼山津神社前下車三分、県道木山線と小池竜田線の交差点のすぐ北側に森がある。

昔は鬱蒼とした社叢であったが、付近の樹木が伐採され、近くに住宅が建って、以前とはすっかり変わって来た。それでも、社殿の周囲には大木が生い茂っている。

境内の大楠は目通り周囲五・一七メートルある。

表の鳥居は、昭和の近代のもので沼山津神社の額が掲げられている。石段を上ると中段に権現宮の石額を掛けた旧鳥居がある。この鳥居の右柱に「宝永八辛卯天(一七一一)三月廿日」と彫られている。

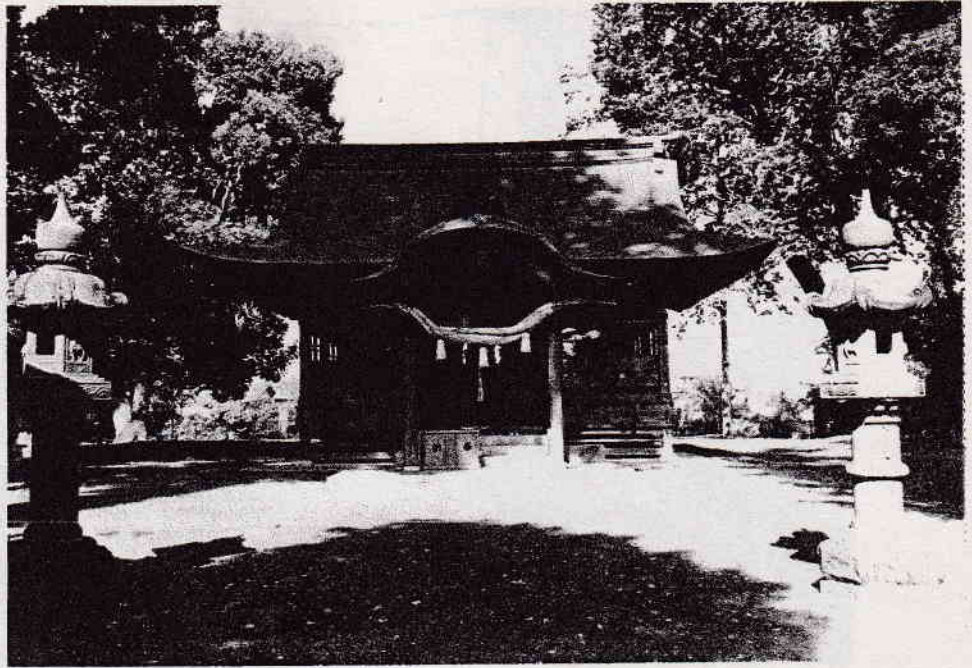
神社は、二間四方の拜殿の奥に玉垣をめぐるした神殿がある。拜殿には、絵馬が四枚かかっており、一番古いのは文化七年(一八一〇)の武内宿禰と応神天皇の図、続いて安政五年(一八五八)彌富亀之助奉納のもの、あとは明治九年(一八七六)志内寿繁奉納のものと、明治十二年(一八七九)の加藤清正奮戦の図である。

境内の手水鉢には、正面彫り込みの中央に丸に違い鷹の羽の紋を描きその下に「奉寄進」左右にかけて「癸丑京保十八年(一七三三)九月吉祥日」と刻し、外右に「願主沼山津四兵衛 光永兵九郎」左外に「同武助・同幸助」と彫ってある。

なお拜殿左側に「奉納」と記した石柱があり、そこに「当熊野宮ハ浮島熊野宮分霊大永二年(一五二二)九月六日勧請 同神殿再建元文五年(一七四〇)十月十四日成就」と由緒を刻んである。

この次の面に「明治四十三年(一九一〇)十一月九日 当神社正遷宮並竣工式」とあり、碑の建設も同年同月で志内孫太郎となっている。

上記の由緒により、この神社が井寺村(現上益城郡嘉島町井寺)の浮島権現の分霊であ



写 真 3 ・ 6 9 沼 山 津 神 社

注記

宝永八辛卯 宝永は七年の四月に改元さている
(一七一一) ので実質には正徳元年



写真 3・70 沼山津神社・吉田司家座

碑の建設も同年同月で志内孫太郎となっている。

上記の由緒により、この神社が井寺村（現上益城郡嘉島町井寺）の浮島権現の分霊であ

ることは確かである。浮島権現は、国誌によれば、長保年間（九九九〜一〇〇四）の勧請と伝えられている。

九月九日がこの神社の祭りである。往時は大変賑わっていた。

（熊本市東部文化財調査報告書・秋津小百周年記念誌 秋津の歴史）

昭和三四年（一九五九）一月拝殿改築。平成三年（一九九一）九月二七日の台風一九号の被害を受けたが、平成六年八月新築復旧する。

祭日の九月九日には、今でも子ども相撲が奉納されている。なお当日には、藁を約四〇センチメートル角に編み、それを割竹で抑えた「吉田司家座（通称追風座）」と言われるものが、二本の神木に飾られている。

これは秋津地区の中無田熊野座神社・西無田雨宮神社（熊野神社）の浮島神社系三社に見られる珍しい祭祀である。

また、「大祓、茅ぐり」も継承され、六月中下旬に実施されている。

（かたりべ学習会）

〔 史 跡 〕

3 昭和町桜並木（イセキ桜）（マップ番号 82）

所在地 熊本市東本町（東本町と昭和町秋津新町の境界・排水路沿い）

四月になると自衛隊通りの桜とともに、水玉公園は絶好の花見の場所になる。

人々を楽しませてくれるこの若葉排水路沿いの桜並木は、いつ誰によって植えられたのであろうか。

桜並木の北側「東本町」は、かつて農業機械專業メーカーの井関農機の工場であった。戦後民需に転換していた三菱重工業（株）熊本機器製作所の跡を引継ぎ、昭和二十四年十月から井関農機が操業開始したが、当時の工場周辺は一本の樹木もない広漠たる畑作地帯で、県道高森熊本線からの道路も井関専用進入道路の様相を呈していた。

昭和二十七年五月井関農機熊本製作所（当時）に、将来の中堅技能者を養成する「技能

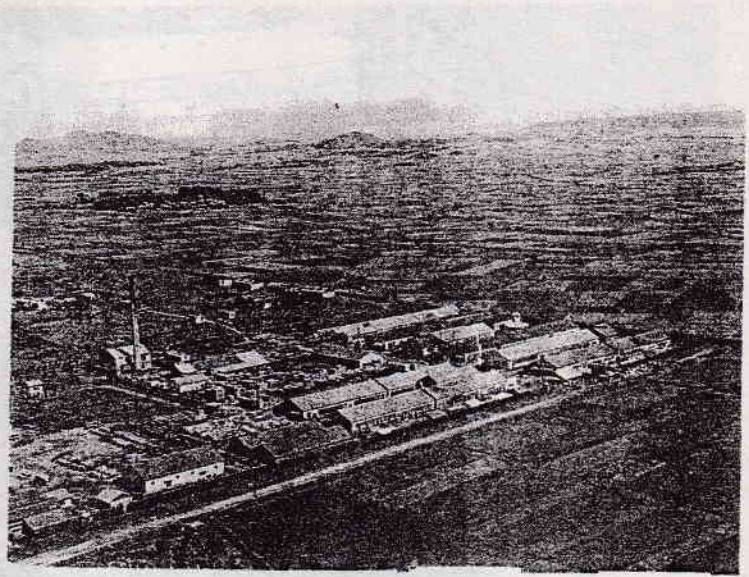


写真 3 昭和 20 年代の東本町付近
1 和 2 0 年 代 の 東 本 町 付 近
7 昭 1 和 2 0 年 代 の 東 本 町 付 近
手 前 が 昭 和 町

(出所 井関農機六十年史)

参考

自衛隊通りの桜について

自衛隊通り約一・五^キの両側にソメイヨシノ約三百五十本が並ぶ。

この桜は、昭和二十九年陸上自衛隊健軍駐屯地が創立された記念と、四十九年の創隊二十周年記念に、健軍商店街から寄贈された。

市緑保全課では、十二年度二十七本・十三年度二十四本を若木に植え替え、十五年度までに約百本を伐採、若木に植え替える予定。

者養成所」が開設された。

当時の井関博所長が「この養成所開設の記念と工場周辺の緑地化、地域の景観形成を意図して桜を植樹する」ことを発案提案された。そこで井関農機熊本製作所の技能者養成工第一期生二〇名の手により、昭和二十七年(一九五二)秋に七〇本の桜が植えられたのである。

植樹から半世紀、宇野耳鼻科医院から昭和町バス停までの間の六十数本の桜、既に老木となっているが今尚地域の人々を和ませている。

その井関農機も昭和五十年(一九七五)九月、益城町安永(第二空港線沿い)に益城地区工場を建設操業させ、昭和五十五年(一九八〇)四月健軍地区の人員・施設を益城地区に移転統合し、現在は(株)井関熊本製造所として操業している。

当時の井関博所長や植樹に携わった人々も既に会社を去り、往時を知る人も少なくなつたが、桜並木だけは、この東本町界隈の半世紀の移り変わりを静かに見守っている。

(語りべ学習会)

4 東本町は二二菱友月年学校校跡

井関農機工場跡 (マップ番号 81)

所在地 熊本市東本町

現在の東本町地区には、三菱航空機製作所建設に伴い、昭和十八年(一九四三)付属青年学校が建設され、畑地から一大変貌。その後幾多の変遷を経て現在の町が形成された。

太平洋戦争中のことである。

健軍町とこれに隣接する旧上益城郡秋津村・飽託郡広畑村(現在の長嶺南・西・東)にまたがる広大な畑地に、昭和十七年(一九四二)六月旧陸軍の軍需工場「三菱重工工業株式会社熊本製作所」が設立された。(敷地一四〇万坪、四六二万[㎡]・従業員四万名)

工場のほか飛行場も併設、社宅・寮や付属病院、青年学校などもあり、資材運搬や通勤のため国鉄水前寺から引込み線を敷設、休止中の百貫電車の軌道を取外し、通勤者のため市電を健軍まで延長するなど大規模な工場であった。

勤労学徒や女子挺身隊も働きに就いており、生産されたのは「飛龍」と呼ばれた重爆撃

十四本を若木に植え替え、十五年度までに約百本を伐採、若木に植え替える予定。

市電を健軍まで延長するなど大規模な工場であった。

勤労学徒や女子挺身隊も働きにいており、生産されたのは「飛龍」と呼ばれた重爆撃

機キ一六七であった。

昭和十八年（一九四三）四月一日、飛行機製造工場の中堅技能者養成のため「三菱重工業（株）私立三菱熊本青年学校」が開校した。

教室棟ゾーン（現在の税務大熊本研修所の一帯）と実習工場ゾーン（現在の県営東本町団地の部分）それに運動場（現在の自衛隊病院と市営東本町団地の部分）の配置となっていた。

資格は高等小学校二年終了者で、教育年限三年。職員三〇余名。生徒数は第一期生一五〇〇名、全員入寮。一小隊六〇名の二五小队編制で学科と実習に軍隊式で厳しい教育訓練が行われた。

昭和二十年四月第三期生まで入所。この第三期生には秋津高等小学校卒業等の女子養成工（裁縫）も入所した。

この青年学校で厳しい教育訓練を受けた特に第一・二期生のなかから、戦後熊本の機械加工・钣金加工のレベルアップと発展に貢献した人々が、多数輩出した。

なお第二秋津寮の一棟で診療していた三菱病院が、昭和十九年十月青年学校内に移転し、昭和二十年六月空襲を避けて、現湖東二丁目の職員住宅二十九棟に分散移転するまで病床一六八・従業員二六三名で診療にあたった。（現在の市民病院の前身）

終戦。昭和二十年（一九四五）十一月三十日私立三菱熊本青年学校は廃校。

第九製作所と称していた三菱の工場は、被災を逃れた青年学校の実習工場を活用して平和産業に転換。

昭和二十二年（一九四七）十二月一日から三菱重工業熊本機器製作所と称して農器具を生産していたが、昭和二十四年（一九四九）九月三十日付で農業機械専門メーカーの井関農機株式会社（本社松山市）へ譲渡した。人員約二〇〇名も引継ぎ、昭和二十四年十月一日井関農機（株）熊本製作所として操業開始。

昭和二十五年（一九五〇）六月二十五日朝鮮動乱勃発。動乱は警察予備隊の設置を促し支隊の熊本駐在が決定。

前日に大慌てで内部の移動を終えた井関農機（株）熊本製作所の一部（西側の事務所部分を、昭和二十五年十一月十五日付で国が買収。

同日、警察予備隊熊本支隊（一五〇〇人）の先遣隊が、引込み線から井関の事務所跡の宿舎に入り、東本町西側部分は警察予備隊の駐屯地となる。

警察予備隊はその後保安隊・自衛隊となり、現在の健軍駐屯地・清水町の熊本駐屯地へ移転。その跡地は、「税務大学校熊本研修所・公務員宿舎・自衛隊熊本地区病院・市営東本町団地」等になっている。

西側を国に譲渡した井関農機は、自動脱穀機の量産専門工場として東側部分で操業していたが、稲作機械化一貫体系の確立による農業機械の大型化と多様化に対応するため、昭和五十年（一九七五）九月、益城町安永（第二空港線沿い）に益城地区新工場を建設操業させ、さらに昭和五十五年（一九八〇）四月健軍地区の人員・施設を益城地区に全面移転統合させた。現在は（株）井関熊本製造所として操業している。

井関農機の工場跡地には、その後「県営東本町団地・ライオンズマンション」等が建設されている。

「健軍町五九〇〇番地」に合筆されていた三菱工場関係跡地が、昭和三十一年（一九五六）に「東町と東本町」の新町名となる。

昭和三十五年（一九六〇）十月には、第十五回国体に御出席の昭和天皇皇后両陛下が東本町の井関農機熊本工場を見学されている。

かつて、「三菱青年学校の養成工・三菱機器製作所と井関農機の従業員・警察予備隊員」と多くの人々の汗と青春の思い出が残る東本町には世帯数一千一百五十五戸・人口三千十二人（平成十四年二月一日現在）の人々が住む町となっている。

（語りべ学習会）